

たまいたま

川柳



アリッサム

力まないといふこと

願法みつる

某日、眠れないままに考えた。力むといふことは何事にも不利であり不可である。モノを握ることが典型だ。自転車のハンドルを握ることから、ゴルフクラブもバットも刀も鉋も鋸も。柔軟自在な力の変化と瞬発の力点を得る原理は、単に動物的な筋肉の動きの問題ではない。力学という観点で見れば、個人の生き方だけでなく、政治・経済や外交など、様々な社会的組織のパワーバランスの場でも適応されるだろう。そこでも力みの及ぼす悪影響については十分に想像出来る。

川柳創作の場面に敷衍して考えるとき、着想力や言語力などでも、力みが能力を抑制することが理解出来る。練達柳人の作句法が如何なるものか伺いたいところだが、きつと彼らは、淡々と構えているだけだよと言っただろう。力まない心身のコントロール法を身につけて居られるのだろう。そこに至るだけの経験則が尊いと言える。

力まないためにはどうすればいいのだろうか。心理学や身体学・組織論・経済論など、科学的な理屈は全く知らない。ただ素人的に考えれば、欲を持たないこととか勝利や成功を意識しないことなどと言えるのだろうか。人間として柳人として、また川柳吟社運営責任者として、力まないためのハウトゥについて、学ばなければ。ナンテ、闇の中でそんなことを考えている自分自身が、既に力んでいる。そして更に眠れなくなってしまうた。

二月号 目次

堅太郎句抄(十四)	願法みつる	表紙	2
巻頭言 力まないということ			1
彩玉集—同人吟			2
拝啓 川柳様 其の四			1
「お休みなさい」と言える人なくての巻	大塚やまぶき		6
雑詠	願法みつる選		9
映像川柳	石田 正則		9
あなたからわたしから			17
七七句	松田重信選		18
腕組みが解けません	戸田美佐緒		21
佐野新一さんを偲んで			22
交替鑑賞			24
初歩添削講座「ひとり言」雑詠	加藤孤太郎		26
題詠 「守る」	國嶋 武		26
「はしやぐ」	垣塚 幸二		24
「悠々」	梶野 正二		22
さいたま一月句会	選		38
お手紙(雑感)	平岡 威		37
社告			38
古丘の世界	文・今村 寿子		38
インフォメーション			39
第49回さいたま川柳大会のご案内			40
編集さろん			3
句会案内			3
表紙(題字・清水 美江 写真・千葉 古丘)	表紙		4

平成25年

2月号 (No.639)

日川協加盟